

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

Diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH)に関する研究
研究分担者 藤林俊介 京都大学大学院感覚運動系外科学講座整形外科

研究要旨 DISHの有無が腰椎変性疾患に及ぼす影響についての報告は少なく、その臨床的意義は解明されていない。腰椎の変性疾患に対する腰椎固定術の臨床成績に及ぼす DISH の影響について検討したところ、DISH を合併する症例は全体のおよそ 20%にみられ、偽関節や隣接障害による再手術のリスクが DISH を合併しない症例の約 5 倍増加する結果となった。

A . 研究目的

DISHの有無が、腰椎変性疾患に対する腰椎固定術の臨床成績に影響を及ぼすかどうかを調査すること。

B . 研究方法

京大病院で 2004 年以降に施行された椎体間固定術の症例の後ろ向き研究。エンドポイントを偽関節または隣接障害による再手術と定義し、Cox 比例ハザードモデルを用いて解析した。本研究は京都大学倫理委員会により承認されている。

C . 研究結果

208 症例のうち 39 症例で DISH を合併していた。再手術のリスクは DISH の合併で 5.5 倍($P<0.0001$)であった。

D . 考察

DISH を有する事で脊椎可動性の減少を生じ、手術部位や隣接部への応力集中が生じる事が再手術リスクの増加につながると推測された。

E . 結論

DISH の合併は腰椎椎体間固定術の臨床成

績の成績不良因子の一つである。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G . 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会
2014.4.17, 京都

第 87 回日本整形外科学会学術総会
2014.5.22 神戸

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし